

多士済々

今月号では、2022年1月15日に「株式会社レノファ山口」の代表取締役役に就任された小山文彦氏にお話を伺いました。



株式会社レノファ山口

主要事業	サッカーチームの運営
所在地	山口市赤妻町 3-5 TEL : 083-941-6792 FAX : 083-941-6794
代表	小山 文彦
E-mail	info@renofa.com
会社URL	https://www.renofa.com



●クラブの歴史

- 昭和24年(1949) 山口県教員団として発足
- 平成18年(2006) 公募により新クラブ名「レノファ山口FC」に決定
- 平成25年(2013) JFL
- 平成26年(2014) J3昇格
- 平成27年(2015) J3優勝、J2昇格

●会社概要

「レノファ山口FC」が誕生して、今年で16年になります。レノファ山口の名称の由来は、renovation (維新)の頭文字「レノ」と、fight (戦う)やfine (元気)の「ファ」を合わせたものです。歴史に名を残した山口県の先人たちのように、日本のサッカー界にもその名を刻んでほしいと願って命名されました。

チームカラーであるオレンジ色をベースにしたエンブレムは、山口県と山口市のランドマークといえる国宝瑠璃光寺五重塔をメインのモチーフとして用いており、室町の昔から今に伝わる山口の伝統・文化と、未来へ向けて大空に立ち昇っていくイメージを表しています。また、クラブ名の由来でもある「維新」の原動力となった長州藩の紋章「一文字に三ツ星」をアレンジしたものが、サッカーボールの模様になっています。そして、戦いに挑むレノファ山口に力を与えるために、古来より戦闘で用いられる盾で囲みました。

公式マスコットキャラクター「レノ丸」は、皆様には既にお馴染みだと思いますが、2018年のJリーグマスコット総選挙で、堂々の第2位(!)を獲得しました。



【クラブ設立の目的】 県民が、『夢・感動・元気』を共有できるチーム
山口県の選手を中心とするチーム
山口からプロチームの誕生・Jリーグ昇格を目指すチーム

●当社の特徴 ～ 山口県にはレノファがある！ ～

2022年のチームスローガンは「共創～ Challenge & Challenge ～」です。勝利のために、そして成長するために何ができるのか、全員が真剣にチームのことを考えて、現状に満足することなく、常に新しいことにチャレンジし、ゴールを目指してチャレンジし続けるという思いを込めています。監督・選手・スタッフ・サポーター・パートナーが一丸となって、熱狂の渦にみんなを巻き込みながら、レノファ山口の新たなステージを共に創りあげていきたいと考えています。もちろん、その先にはJ1昇格という未来が必ず待っていると信じています。燃え上がる炎のシルエットを纏わせたスローガンのデザインは、今シーズンにかける熱い思いを表現しています。



私自身は、山口大学卒業後、会社員を経てソフトウェア開発会社やインキュベーション・スポーツ支援会社を立ち上げ、経営者としての実績を積んできました。プレーヤーとしての経験はありませんが、長年サポーターとしてレノファ山口を応援してきた中で、自分の経験を生かして山口県で何か出来ることはないかという思いを抱くようになり、レノファ山口の方々との出会いがあって、社長という重大な職

責を預かることに至りました。私がレノファ山口FCの社長に就任することが、私自身が山口でチャレンジするきっかけと、生まれ育った山口県に恩返しする機会をいただいたと、前向きに考えて受諾させていただきました。責任は大きいと思いますが、チームの強化については名塚監督にお任せして、株式会社としての健全性を高めて、チームを強化するために獲得したい選手を獲得できるようにしていくことが、私の役割だと思っています。とにかく、経験に驕ることなく、これまでの知見やネットワークを駆使して、私自身がさらに成長することで、レノファ山口もさらに発展していくように努めて参ります。とはいえ、私一人で実現できるわけではないので、名塚監督や石原GMと一緒に三人四脚で前向きに運営していきたいと考えています。



2022年のホーム用のユニフォームは、オレンジと黒のツートンカラーで、オレンジがクラブ・選手を、黒がサポーター・パートナーを表現しています。真ん中のラインがギザギザになっているのは、単なるデザインではありません。現在はコロナ禍なので、応援の際に声を出してはいけないため、2020年2月23日に維新みらいふスタジアムで歌われた勝利の賛歌「やまぐち一番」の音声の波形を元にして、スタッフがデザインしました。つまり、この波形は、クラブと選手、サポーター、パートナー、レノファ山口に関わる全ての人々がひとつに重なり合う、「やまぐち一番=勝利」という最高の瞬間を表現しているのです。もちろん、アウター用のユニフォームにも「やまぐち一番」の声の波形がデザインされています。先般、レノファ山口のファンの方が、手編みのニット帽をプレゼントしてくださったのですが、新しいユニフォームに合わせて、勝利の賛歌「やまぐち一番」の波形が編み込まれていることに、大変感動しました。このように熱心でクリエイティブなファンの方の存在は本当に心強いですし、サポーターとの交流をより深めて、コミュニケーションもしっかり図っていきたいとの思いを改めて強くしました。



●今後の展開 ～ 山口のシンボルとして、目指すはJ1昇格 ～

Jリーグはアフターコロナに舵を切りました。今年度末でJリーグの財務基準の特例措置は終了し、2023年度末までの2年間の猶予期間の後に従来の基準に戻り、債務超過や連続赤字の場合はクラブライセンスが交付されなくなります。レノファ山口はJ1を目指すという目標を掲げていますが、財務問題を解決しなければ、J2で戦うことすらできなくなるのです。J1を目指すという目標を夢物語で終わらせないためにも、まずは予算をしっかりと組み立てて、今シーズン中の債務超過の解消、来シーズンの連続赤字の解消を進めることが必要不可欠なのです。債務超過を解決するためには、増資するか黒字を出すかの二者択一になりますが、現段階での黒字化はまだ難しいでしょうから、クラブライセンス交付の際に問題のない状態を作るためにも、今年の早い段階での増資を目指します。増資に応じていただける企業の方々への内容の確認を早々に進め、1社でも多くパートナーを増やしていくことで、債務超過を解消できればと考えています。



大変な重責ですが、42試合全部を生で見ることが出来るので、今から楽しみです。そのためにも、体調管理に努めなくては(笑)。試合を観戦することが、デスクワークの遣り甲斐につながりますし、モチベーションアップにもなりますからね。J2は各チームの実力が拮抗していますから、どのチームがJ1に昇格してもおかしくない状況です。逆もしかりですけど…。とにかく、1試合1試合に、気が抜けないですね。



私が東京で起業したのが2006年だったこともあり、エンブレムに2006を冠するレノファ山口は、地元のサッカーチームという関心以上に、親近感を抱いていました。縁あってレノファ山口の代表取締役役に就任いたしました。私自身は今後もレノファ山口のファンであり続けるつもりです。あくまでもレノファ山口の主役はファンやサポーターだと思っていますので、ファンやサポーターのみなさんに満足していただくことを第一に、いろいろなことに取り組んで参ります。まずは、ファンクラブ、法人会員についての見直しを図る予定ですので、企業のみなさんのお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。県民のみなさんに夢と感動を与え、山口県を元気にするために、私たちと一緒に、強く楽しいチームをつくっていきましょう。また、サポーターの声をチームづくりに反映させるために、ファンやサポーターのみなさんの意見を聴けるような仕組みにして、いいアイデアがあればどんどん取り入れていきたいですね。

J1に昇格すれば、選手も定着するでしょうし、J1昇格はレノファ山口設立以来の悲願でもあります。そのためには、攻撃的で強いチームづくりが不可欠ですが、同時にスタッフの育成も進めていきたいと思っています。これからも、山口のシンボルとして、ファン、サポーターやパートナーのみなさんと『夢・感動・元気』を分かち合えるように頑張りますので、レノファ山口の応援をどうぞよろしくお願いいたします。